

して厳しい中にも協調を重んじ、目指す目標に向かって市民と行政が共に考え共につくりあげるまちづくりに、成果ある年になるよう微力ながら頑張ります。



希望

石井憲一さん（第4次総合計画
第2期基本計画策定市民検討
委員会委員）

登別市総合計画、『人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市のぼりべつ』の宣言から10年の歳月が流れました。

時の流れは、環境問題をはじめ個別に見える事柄の標準の国際化を進め、人口減少・少子高齢・医療費増大など都市を取り巻く状況の変化は、21世紀の節目に合わせるように都市生活者（市民）のライフスタイルの転換を要求しています。

このようなことを考えると、わたしたち登別・登別市民に『輝きと

きめく明日』はあるのでしょうか。こんな疑問符が脳裏をよぎります。

しかし、今進められている市民と行政の積極的な協働意識の高揚を継続することで、明日は見えてくると思います。

まず、なんと言っても登別温泉という世界に冠たる観光資源を軸に置いた交流意識を市民全体で育てていくことで、近隣都市との連携を高めることになると思います。

次に、医療・福祉施設の充実で高齢者がゆったりと活動できる場を提供する。中高一貫教育が始まることなど、若い人たちが活発になる要素が増えるので、それに連動し若者が集う場の提供を市民が積極的に意識する。

これらのことを推し進めることで、少子高齢社会を積極的に意識した活力に満ちた登別の明日がつけられると思います。

この道筋は一朝一夕で達成できません。市民・行政と地域企業の連携がさまざまな場面で必要とされます。そして、肝心なことはわたしたち市民（住民）が新しい明日（世紀）へどのような想いを育て、協働の意識を持って考えているかであると思います。

少子高齢社会は後ろ向きな（後ずさりする）時代の到来ではないと思います。時代を担う登別市民としての老若男女にとっては魅力的とも言

えます。登別市民として協働すべき役割がはつきりしてくるからです。

現在の状況の中で次代をじっくりと見据えながら、遅れないよう注意深く速やかに行動することで登別の明日は開けます。

春夏秋冬には季節感があふれ、海の幸はどこに出しても誇れる、そんな環境ははくくむ5万都市登別です。私は一市民としての自覚を持ってゆつくりと参加し、明日への期待が持続するよう心掛けながら、希望を次の世代に橋渡しできることを目標にします。

第54回北海道公衆衛生大会を終えて

對馬敬子さん

（登別市衛生団体連合会理事）
昨年9月1日・2日に、登別市民会館で全道から約1千人が参加し、『第54回北海道公衆衛生大会』が開催されました。

この大会は、環境や衛生、健康づくりの各分野で活躍されている皆さんが、事例発表や講演を通して問題意識を共有し、今後の活動に役立てるために行われるもので、登別市衛生団体連合会からわたしたち女性理事3人も『春と秋のクリーン作戦とごみ分別辞典の作成について』と題し、事例発表を行いました。

発表に当たっては、3人で話し合

った結果、ユニークで親しみのある内容でということになり、1人が内容を発表し、2人は舞台上で会話をしながら動きのある実践活動の発表に、場内から笑い声と大きな拍手をいただき、練習をした成果に満足しています。

本大会の開催に先立ち、全道からの参加者をきれいな街並みで迎えようと、衛生団体連合会では各町内会などの参加協力を得て、8月21日と28日の2日間、『夏のクリーン作戦』を初めて企画し、清掃ボランティア活動を実施しました。

この大会を契機として、市民一人ひとりが『美しい清潔な街』にと、美化意識の気運が高まっていくことを願っています。

また、今年は春と秋のクリーン作戦以外でもわたしたちの町内会婦人部やサークル、団体に呼び掛けて、地域のボランティア清掃活動を実施したいと思っています。

